

第2章 重要文化的景観「緒方川と緒方盆地の農村景観」の特徴と価値

第1節 重要文化的景観「緒方川と緒方盆地の農村景観」の特徴

本重要文化的景観では、緒方盆地の水田景観、軸丸棚田の棚田景観、緒方駅周辺の市街地景観の3つの景観のまとまりが、それぞれの魅力を見せつつ、地質の特徴を表す滝や断崖、水と深く関わる寺社や磨崖仏、井路の開発を記した石碑、近代の発展を象徴する石橋等と一体となって、地域の歴史や文化を伝えている。以下に、緒方盆地、軸丸棚田の景観の特徴と、その中で継承される暮らしの文化を紹介する。

1 緒方盆地の景観の特徴

【奥行きのある眺め】

下の写真は、緒方川沿いの国道502号から井上地区の方向を見た眺めである。近景に水田、遠景に井路沿いの集落、その背後に里山がある。里山の上には空が広がり、奥行きのある眺めを描き出している。



奥行きのある眺め

【山際に建ち並ぶ民家と井路】

緒方盆地では、長淵井路・緒方上井路・三区(野仲)井路などが山際に引かれ、これより下方の古い井路と水路網を築きながら、河岸段丘いっばいに広がる水田を潤している。民家は、山際の井路の山側を中心に敷地を並べ、^{しょうしや}瀟洒な石橋等を井路にかけている。できるだけ高い位置に水を引いて水田を広げようとしてきた人々の営みが、奥行きのある眺めをつくりあげてきた。



山際に建ち並ぶ民家と井路

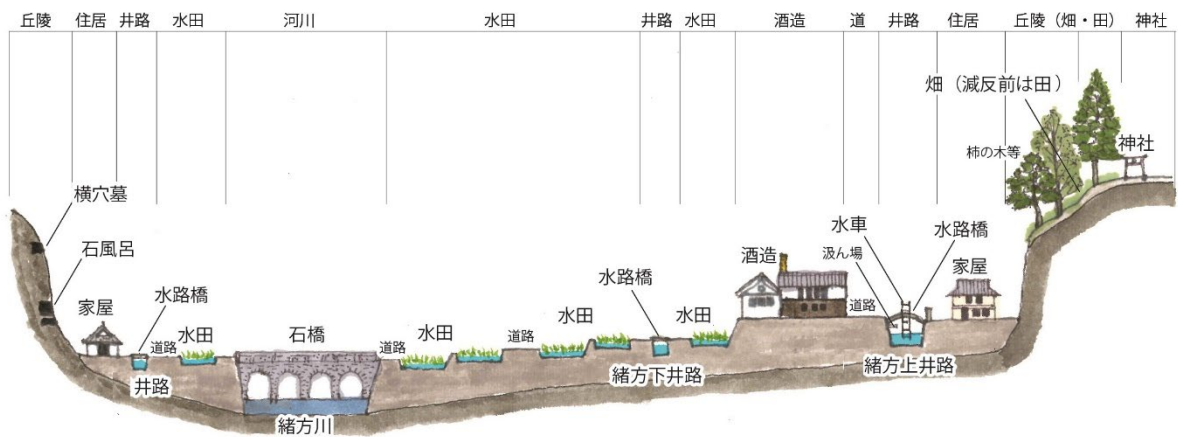


図 2-1 緒方盆地の断面模式図

※緒方盆地の地理的特性をイメージして表現したものであり、実際の断面とは異なる。
 ※大分大学工学部姫野由香准教授作成の図を加工し、イラストタッチでトレースしたものである。

【緒方三社川越し祭りと原尻の滝周辺の眺め】

原尻の滝では、緒方川右岸にある一宮八幡宮・二宮八幡社の祭神と、緒方川左岸、滝から北東約 1.3km の地点にある三宮八幡社の祭神が会う緒方三社川越し祭りが行われる。この祭りは、滝上から取水する井路に感謝し、五穀豊穰を感謝する祭りと言われている。緒方三社や滝上流にある緒方下井路の堰堤、川中にある大きな鳥居は、緒方川の地形と水を利用し農業を営む人々が形づくった景観である。



川中の大鳥居

【町の中心地として発達した緒方駅周辺の眺め】

大正 11 年(1922)の豊肥線鉄道緒方駅開業以降、馬場地区は物資輸送の拠点となり、駅の北東側に商店街が発達した。昭和 7 年(1932)に緒方村と南緒方村が合併し、昭和 10 年(1935)には合併の象徴とも言うべき緒方尋常高等小学校校舎が、駅から西の広大な圃場内に建設された。昭和 30 年(1955)に、緒方町・長谷川村・上緒方村・小富士村が合併し、新緒方町発足の象徴として町役場が圃場内に新築された。これ以降、役場周辺には中学校・高校・農協・商店などが、建設され市街地化が加速し、緒方町の中心地となっている。



JR 緒方駅周辺

2 軸丸棚田の景観の特徴

【古田と新田が織りなす棚田の眺め】

軸丸地区の棚田は、古くから軸丸川により灌漑される水田（右写真上）と、大正3年(1914)以降に富士緒井路により灌漑される水田（右写真下）で構成されている。富士緒井路通水後、緩やかな傾斜にできた水田を「新田」と呼び、それまでにあった軸丸川沿いの水田を「古田」と呼んでいる。「新田」の水源となった富士緒井路の取水口は、軸丸地区から約15kmも上流の大野川に設けられている。

軸丸棚田は、軸丸川沿いの「古田」と、緩やかな丘陵の斜面に造られた「新田」の織りなす景観が大きな特徴となっている。図2-2は、軸丸棚田の断面模式図で、尾根上を流れる富士緒井路と新田、軸丸川沿いの古田、緩斜面に建てられた家屋などの位置関係を示している。



古田

古田



新田

新田

新田

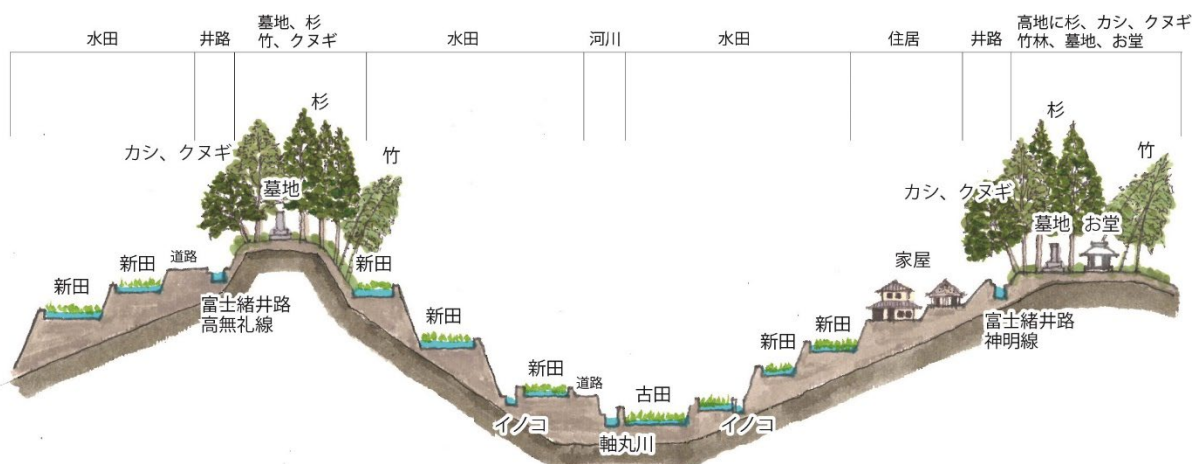


図2-2 軸丸棚田の断面模式図

※軸丸棚田の地理的特性をイメージして表現したものであり、実際の断面とは異なる。

3 井路と暮らしの風景

井路を維持・管理するため、人々は毎年協力しあって井路普請を行う。井路にはクンバ（水汲み場）が設けられ、農機具を洗ったり、庭木に水を撒いたりすることに利用されている。また、井路は防火用水の役割も果たしており、人々の日常生活にとってなくてはならない存在となっている。



農機具洗い
(緒方上井路：上自在地区)



井路普請
(緒方上井路：下自在地区)



井路の蓋掛け
(富士緒井路：軸丸地区)

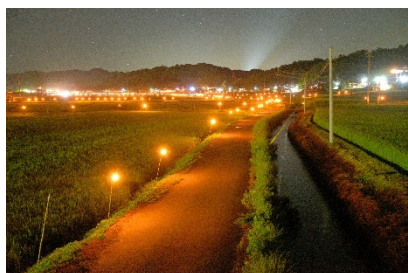
4 今も継承される民俗芸能や行事

人々は五穀豊穰を願うため、お盆には虫追い行事の小松明（コダイ）を行う。

9月の緒方五千石祭では神楽・獅子舞・白熊・千盆搗^{せんぼんづき}が奉納披露される。千盆搗は井路普請の赤土練りの動作と唄を芸能化したもので、大分県の選択無形民俗文化財にもなっている。11月には、井路に感謝する祭礼でもある緒方三社川越し祭りが行われる。

また、辻河原石風呂は、緒方川流域に集中して分布する蒸し風呂のひとつで、今でも地元の人々の憩いの場所となっている。

今は見ることのない昔の農作業風景は、農家で生まれ、農家に嫁いだ後藤絹さんにより紙粘土人形で再現され、往時を偲ばせている。



コダイ
(8月)



緒方五千石祭での神楽奉納
(9月)



緒方五千石祭での千盆搗
(9月)



緒方三社川越し祭り
(11月または12月)



辻河原石風呂



昔の農村風景を今に伝える
後藤絹さん手作りの人形

第2節 重要文化的景観「緒方川と緒方盆地の農村景観」の本質的価値

～文化審議会の答申（令和4年12月16日報道発表）より～

本重要文化的景観の本質的価値を示すものとして、令和4年12月16日に報道発表された文化審議会の答申がある。端的に本重要文化的景観の特徴も示しているので、原文のまま掲載する。

豊後大野市の西部に位置する緒方盆地は、大分県南西部に広がる阿蘇火山由来の溶結凝灰岩^{ようけつぎょうかいがん}が覆う丘陵地帯に位置する。盆地中央を蛇行する緒方川の侵食により形成された河岸段丘^{かがんだんきゅう}は、丘陵地帯にあって稀有なまとまった平地であるが、他所と同様に川面と大きな高低差があり、灌漑用水^{かんがいようすい}を得る努力が行われてきた。

緒方盆地では、古くは緒方川支流流域^{ゆうすい}で湧水による^{きこだ}迫田が開かれ、古代には宇佐神宮の荘園とされ、平安末期には^{しやうじ}荘司の緒方氏により低位段丘を潤す水路が開削されたとされる。近世には岡藩^{おかはん}により中位段丘を潤す水路が整備され、藩屈指の稲作地帯となった。近代には、丘陵上に長距離水路が整備され、高位段丘と丘陵部に棚田が開かれた。

耕作面積の確保のために、岡藩が水路より高所に集落を移転させる等して形成された川、水田、水路、集落、山林が連なる土地利用が維持されている。また、水路網や石橋^{まがいぶつ}、磨崖仏^{いしごる}や石風呂等、人々が時代毎の技術を用いて溶結凝灰岩を開発に生かし、文化や信仰を育んできたことを伝える要素が至る所に残される。

当該文化的景観は、大分県南西部に広がる丘陵地帯において、水路開削により稲作地帯として発展を遂げてきた農村の変遷を伝え、貴重である。



緒方川と緒方盆地

第3節 重要な構成要素（概要）

1 景観を形づくる井路群と三段階の開発

緒方川流域は、大きく3つの時代区分（中世以前、近世、近代）で、景観の成立過程が理解できる地域である。

中世以前(室町時代以前)	
<ul style="list-style-type: none"> 古くは軸丸川、大久保川（黒土甲川）より取水し、低地に開かれた井上条里を潤していた。平安末期から、緒方下井路により緒方盆地底で大規模な水田開発が行われた。緒方荘荘司（荘園を管理し、荘園内の一切の雑務を司った役人）で武将の緒方三郎惟栄による開発行為で、緒方三社（一宮八幡宮・二宮八幡社・三宮八幡社）の創建、緒方宮迫東西石仏の造立なども行ったと言われている。これは、今も行われている「緒方三社川越し祭り」「緒方五千石祭」などの伝統的な祭礼の始まりに大きく影響している。緒方三社川越し祭りは、緒方井路を守る緒方三社の祭礼であり、神社創建者緒方三郎惟栄の慰霊と井路に感謝する祭礼である。 	
<p>(解説)</p> <ul style="list-style-type: none"> 大久保川（黒土甲川）、軸丸川等を水源とし、緒方下井路により、盆地底部の一部が水田化されていく。 家屋は、緒方下井路沿いに立地する。 	
近世(江戸時代)	
<ul style="list-style-type: none"> 江戸期における、長淵井路、平瀬井路、原尻古井路、野仲井路（のちの三区井路）、绪方上井路の開削により、绪方盆地底・周辺丘陵地の水田化が進んだ。 江戸期において、この地区を治めていた岡藩主の命のもと、井路より上手に家屋が移された。 	
<p>(解説)</p> <ul style="list-style-type: none"> 绪方上井路等により、盆地底部が広く水田化されていく。 広い水田面積を確保するため、家屋は、绪方上井路と丘陵の間に移転する。 	
近代以降(明治時代以降)	
<ul style="list-style-type: none"> 明治以降、年野井路、柚木井路・原尻新井路、富士緒井路、明正井路が通水したことにより、丘陵地帯の水田化（畑作から稲作への転換）が成し遂げられた。明治時代の字図と現況を比較したとき、畑作から稲作への劇的な転換が行われたことがわかる。 	
<p>(解説)</p> <ul style="list-style-type: none"> 近代の土木技術の発達により、軸丸地区等、標高の高い丘陵地帯の水田化が進み棚田が形成される。 	

図 2-3 時代区分別の井路と水田開発の概要

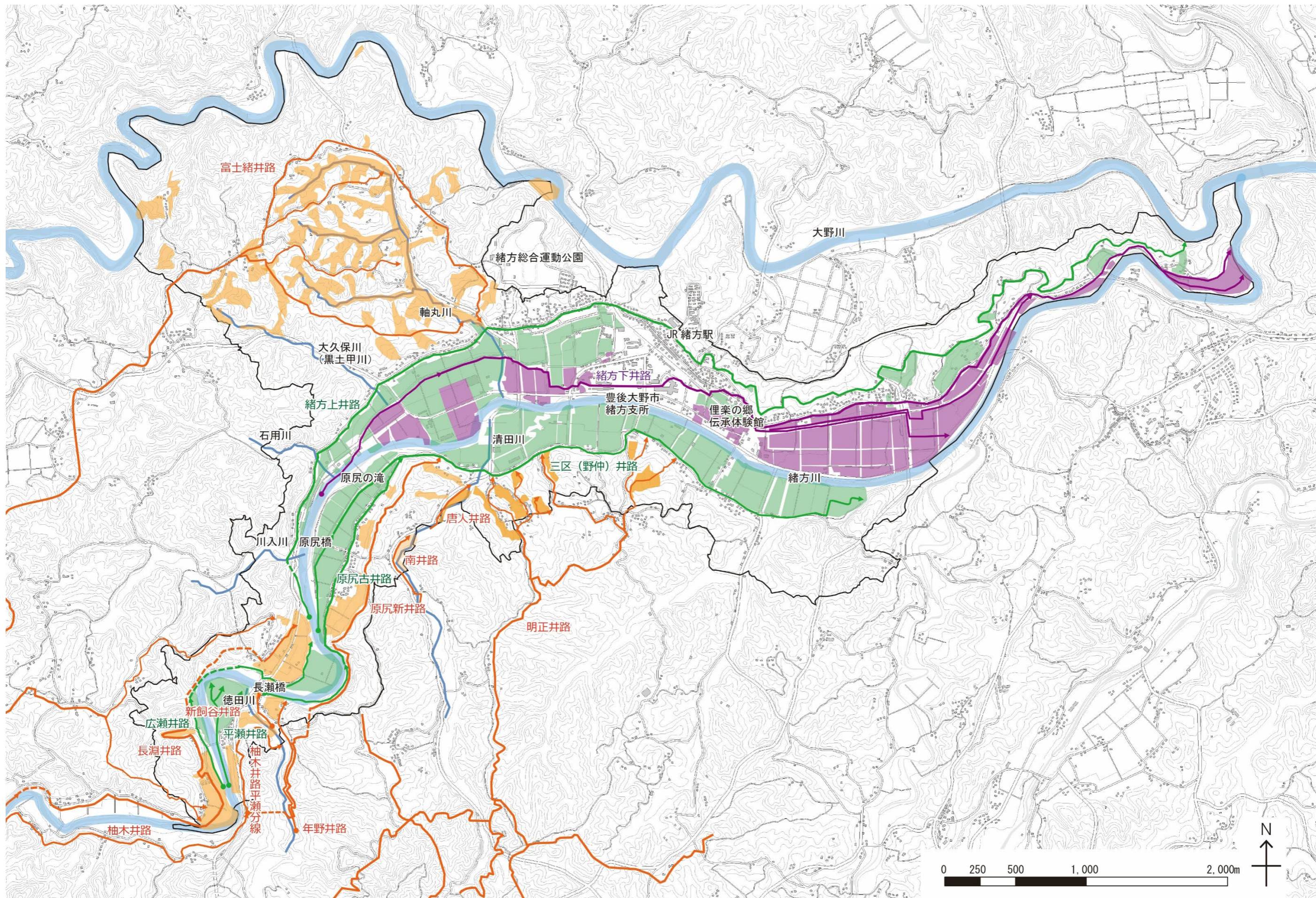


図 2-4 井路と圃場 ■ 中世以前 ■ 近世 ■ 近代以降に開発された圃場

2 重要な構成要素一覧及び位置図

本重要文化的景観は、約9万年前の阿蘇火山の噴火後から長年にわたって築かれた自然と、豊富な水資源を生活の営みの中で築いてきた人々とのコミュニケーションが、歴史的、文化的に検証できる景観である。

すなわち、自然地形の上に、人々が生活、生業を通して必要とした建造物や構造物（以下、「建造物等」という。）が築かれ、今に至っている。

前項で取り上げた井路を始め、本重要文化的景観を形づくる建造物等の中でも、特に重要なものを「重要な構成要素」として選定し、保存・活用及び整備の対象としている。

重要な構成要素の選定にあたっては、下記項目を基準とし、区分した。

○選定基準

- (1) 緒方盆地の地形の成り立ちを伝えるもので、かつ重要文化的景観を特徴づけるもの。
- (2) 緒方盆地における農村形成の歴史を伝えるもので、かつ重要文化的景観を特徴づけるもの。
- (3) 時代ごとの生活や文化のあり様を伝えるもの。

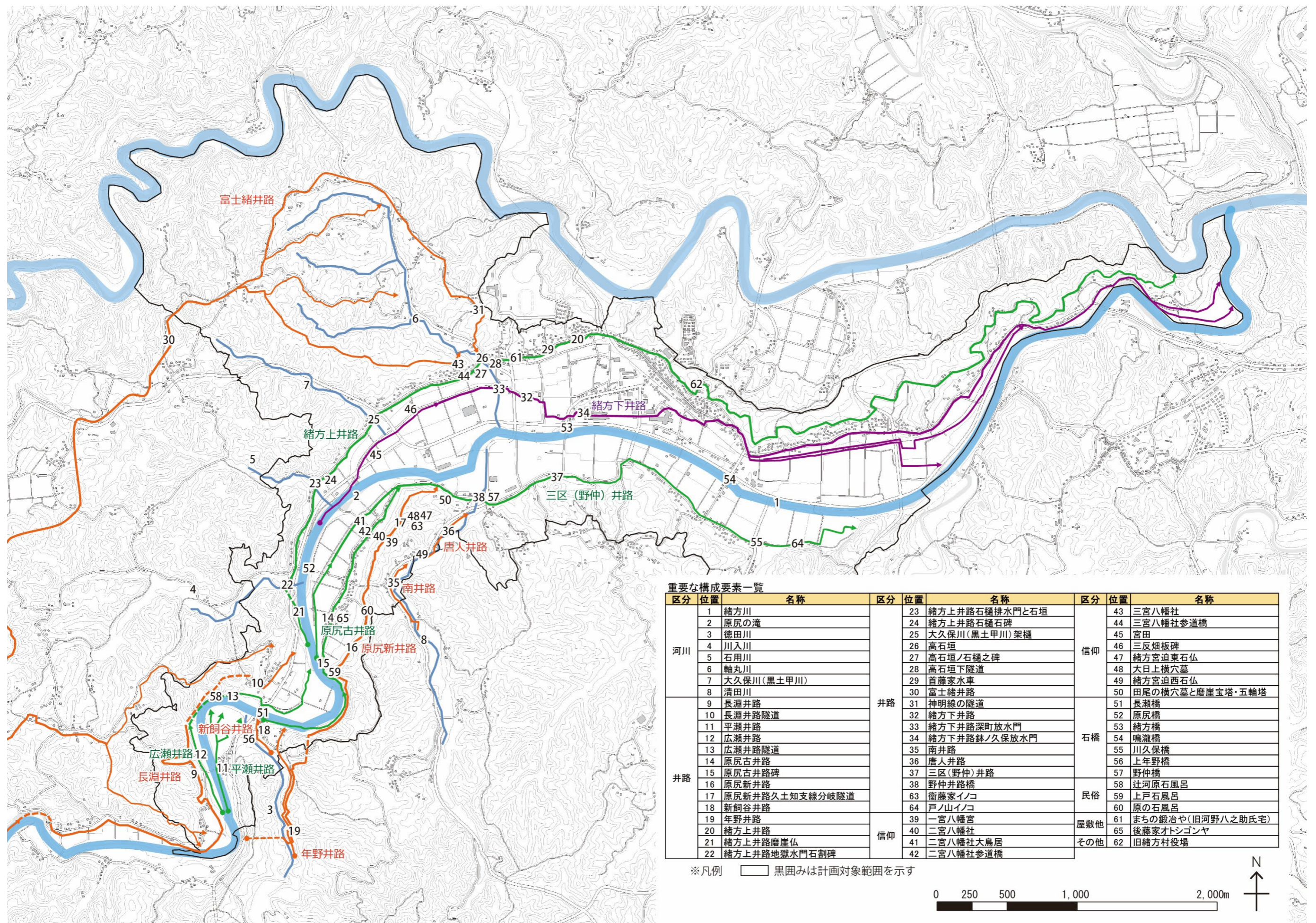
○区分

- 「河川」「井路」 水にまつわるもの。
- 「信仰」 水の恵みに感謝する祭礼に関するもの。
- 「石橋」「民俗」 石にまつわるもの。
- 「屋敷地」 農業を生業とし、人々の居住形態が分かるもの。
- 「その他」 水と石に関わるものではないが、重要な建造物等となるもの。

表 2-1 重要な構成要素一覧

区分	管理番号	地図番号	名称	所有者 管理者	基準
河川	川-1	1	緒方川	大分県	(1)
	川-1-1	2	原尻の滝	大分県	(1)
	川-2	3	徳田川	大分県	(1)
	川-3	4	川入川	大分県	(1)
	川-4	5	石用川	大分県	(1)
	川-5	6	軸丸川	大分県	(1)
	川-6	7	大久保川（黒土甲川）	豊後大野市	(1)
	川-7	8	清田川	大分県	(1)
井路	井-1	9	長淵井路	長淵井路水利組合	(2)
	井-1-1	10	長淵井路隧道	長淵井路水利組合	(2)
	井-2	11	平瀬井路	平瀬井路水利組合	(2)
	井-3	12	広瀬井路	広瀬井路水利組合	(2)
	井-3-1	13	広瀬井路隧道	広瀬井路水利組合	(2)
	井-4	14	原尻古井路	緒方井路土地改良区	(2)
	井-4-1	15	原尻古井路碑	緒方井路土地改良区	(2)
	井-5	16	原尻新井路	原尻区	(2)
	井-5-1	17	原尻新井路久土知支線分岐隧道	原尻区	(2)
	井-6	18	新飼谷井路	新飼谷井路水利組合	(2)
	井-7	19	年野井路	年野井路水利組合	(2)
	井-8	20	緒方上井路	緒方井路土地改良区	(2)

区分	管理番号	地図番号	名称	所有者 管理者	基準
井路	井-8-1	21	緒方上井路磨崖仏	緒方井路土地改良区	(2)
	井-8-2	22	緒方上井路地獄水門石割碑	緒方井路土地改良区	(2)
	井-8-3	23	緒方上井路石樋排水門と石垣	緒方井路土地改良区	(2)
	井-8-4	24	緒方上井路石樋石碑	緒方井路土地改良区	(2)
	井-8-5	25	大久保川（黒土甲川）架樋	緒方井路土地改良区	(2)
	井-8-6	26	高石垣	緒方井路土地改良区	(2)
	井-8-7	27	高石垣ノ石樋之碑	緒方井路土地改良区	(2)
	井-8-8	28	高石垣下隧道	緒方井路土地改良区	(2)
	井-8-9	29	首藤家水車	個人所有	(3)
	井-9	30	富士緒井路	富士緒井路土地改良区	(2)
	井-9-1	31	神明線の隧道	富士緒井路土地改良区	(2)
	井-10	32	緒方下井路	緒方井路土地改良区	(2)
	井-10-1	33	緒方下井路深町放水門	緒方井路土地改良区	(2)
	井-10-2	34	緒方下井路鉢ノ久保放水門	緒方井路土地改良区	(2)
	信仰	井-11	35	南井路	受益者個人
井-12		36	唐人井路	受益者個人	(2)
井-13		37	三区（野仲）井路	緒方井路土地改良区	(2)
井-13-1		38	野仲井路橋	緒方井路土地改良区	(2)
井-14		63	衛藤家イノコ	個人所有	(3)
井-15		64	戸ノ山イノコ	個人所有	(3)
信-1		39	一宮八幡宮	一ノ宮八幡社	(3)
信-2		40	二宮八幡社	二宮八幡社	(3)
信-2-1		41	二宮八幡社大鳥居	原尻区	(3)
信-2-2		42	二宮八幡社参道橋	二宮八幡社	(3)
信-3		43	三宮八幡社	三宮八幡社	(3)
信-3-1		44	三宮八幡社参道橋	三宮八幡社	(3)
信-3-2		45	宮田	個人所有	(3)
信-3-3		46	三反畑板碑	個人所有	(2)
信-4		47	緒方宮迫東石仏	個人所有	(2)
信-4-1	48	大日上横穴墓	個人所有	(2)	
信-5	49	緒方宮迫西石仏	個人所有	(2)	
信-6	50	田尾の横穴墓と磨崖宝塔・五輪塔	個人所有	(2)	
石橋	石-1	51	長瀬橋	豊後大野市	(2)
	石-2	52	原尻橋	豊後大野市	(2)
	石-3	53	緒方橋	豊後大野市	(2)
	石-4	54	鳴瀧橋	豊後大野市	(2)
	石-5	55	川久保橋	豊後大野市	(2)
	石-6	56	上年野橋	豊後大野市	(2)
	石-7	57	野仲橋	豊後大野市	(2)
民俗	民-1	58	辻河原石風呂	前辻組合	(2)
	民-2	59	上戸石風呂	個人所有	(2)
	民-3	60	原の石風呂	個人所有	(2)
屋敷地	家-1	61	まちの鍛冶や（旧河野八之助氏宅）	個人所有	(3)
	家-2	65	後藤家オトシゴンヤ	個人所有	(3)
その他	他-1	62	旧緒方村役場	豊後大野市	(2)



重要な構成要素一覧

区分	位置	名称	区分	位置	名称	区分	位置	名称
河川	1	緒方川	井路	23	緒方上井路石樋排水門と石垣	信仰	43	三宮八幡社
	2	原尻の滝		24	緒方上井路石樋石碑		44	三宮八幡社参道橋
	3	徳田川		25	大久保川(黒土甲川)架橋		45	宮田
	4	川入川		26	高石垣		46	三反畑板碑
	5	石用川		27	高石垣ノ石樋之碑		47	緒方宮迫東石仏
	6	軸丸川		28	高石垣下隧道		48	大日上横穴墓
	7	大久保川(黒土甲川)		29	首藤家水車		49	緒方宮迫西石仏
	8	清田川		30	富士緒井路		50	田尾の横穴墓と磨崖宝塔・五輪塔
井路	9	長瀬井路	31	神明線の隧道	石橋	51	長瀬橋	
	10	長瀬井路隧道	32	緒方下井路		52	原尻橋	
	11	平瀬井路	33	緒方下井路深町放水門		53	緒方橋	
	12	広瀬井路	34	緒方下井路鉢ノ久保放水門		54	鳴瀬橋	
	13	広瀬井路隧道	35	南井路		55	川久保橋	
	14	原尻古井路	36	唐人井路		56	上年野橋	
	15	原尻古井路碑	37	三区(野仲)井路		57	野仲橋	
	16	原尻新井路	38	野仲井路橋		民俗	58	辻河原石風呂
	17	原尻新井路久土知支線分岐隧道	63	衛藤家イノコ			59	上戸石風呂
	18	新飼谷井路	64	戸ノ山イノコ		屋敷他	60	原の石風呂
	19	年野井路	39	一宮八幡宮			61	まぢの鍛冶や(旧河野八之助氏宅)
	20	緒方上井路	40	二宮八幡社		その他	65	後藤家オトシゴンヤ
	21	緒方上井路磨崖仏	41	二宮八幡社大鳥居			62	旧緒方村役場
	22	緒方上井路地獄水門石割碑	42	二宮八幡社参道橋				

※凡例 □ 黒田みは計画対象範囲を示す

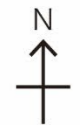
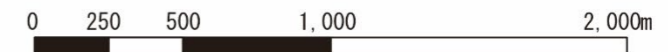


図 2-5 重要な構成要素分布図